

## 中学校 外国語科(英語) 学習指導案

指導者 山田 佳代子

- 日時** 平成 29 年 10 月 14 日(土) 第2限 10:35~11:25
- 場所** 第1 研修室
- 学年・組** 中学校 1 年 A 組 40 人 (男子 19 人 女子 21 人)
- 単元** *Marcel and the Shakespeare Letters* (Stephen Rabley)  
Pearson English Readers Level 1 (Pearson Education Ltd.)
- 目標**
1. 分からない語句などがあっても、話の流れを予測したりしながら読み続けようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
  2. 気持ちや状況が伝わるよう工夫して英語で表現する。(外国語表現の能力)
  3. 物語を読んで概要を把握する。(外国語理解の能力)
  4. 物語の文化的な背景を知る。(言語や文化についての知識・理解)

### 指導計画 (全 11 時間)

- 第一次 プレリーディング活動・物語の場面設定の理解 1 時間 (本時)
- 第二次 物語の理解 6 時間
- 第三次 全体を通した読み返し・お気に入り部分の音読 2 時間
- 第四次 登場人物の視点からのあらすじの語り直し 2 時間

### 授業について

本校では総合的な学習の時間のうち週一時間を使って、「総合英語」の授業を行っている。前期は日本人教師による授業、後期は ALT とのティームティーチングで授業を進め、題材として Pearson English Readers や Oxford Bookworms などまとまりのある読み物を取り入れている。内容のパラフレーズの他、書き手の意図や物語展開における伏線を読み取ったり、場面や状況に応じた朗読をしたりするなど様々な活動を通して、テキストと対話し、より深く学ぶ力を育てることを目指している。

**題 目** テキストとの対話を通じた深い学びの試み

### 本時の目標

1. 物語の概要を聞いたり読んだりして理解する。(外国語理解の能力)
2. 分からない語句などがあっても、話の流れを予測したりしながら読み続けようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

### 本時の評価規準 (観点/方法)

1. 物語の概要を聞いたり読んだりして理解できる。(外国語理解の能力/ワークシート)
2. 分からない語句などがあっても、話の流れを予測したりしながら読み続けようとしている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度/観察)

## 本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<b>Pre-Reading 活動 1</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容を予測する。</li> <li>・意見を述べ合う。</li> <li>・物語の背景知識を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想像力を膨らますよう促す。</li> <li>・背景知識を共有させる。</li> </ul>
<b>Pre-Reading 活動 2</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の導入部を聞き，必要な情報を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細部にこだわらずキーワードをとらえるよう促す。</li> </ul>
<b>While-Reading 活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数枚に分かれたイラストと，それに対応する英文をマッチングさせ，話の展開を予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Pre-reading 活動で行った予測と比べるよう促す。</li> <li>・イラストの内容を最もよく表す英文を探す。</li> <li>・グループで協力して行う。</li> <li>・表現について積極的に辞書を使わせる。その際，本文にふさわしい意味を考えるよう促す。</li> </ul>
<b>Post-reading 活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト全体をざっと読みながら，イラストと英文のマッチングの答えを確認し，話の概要をつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細にはこだわらず，話の流れを想像するよう促す。</li> </ul>
<b>備考</b>		

*Marcel and the Shakespeare Letters* ワークシート 1

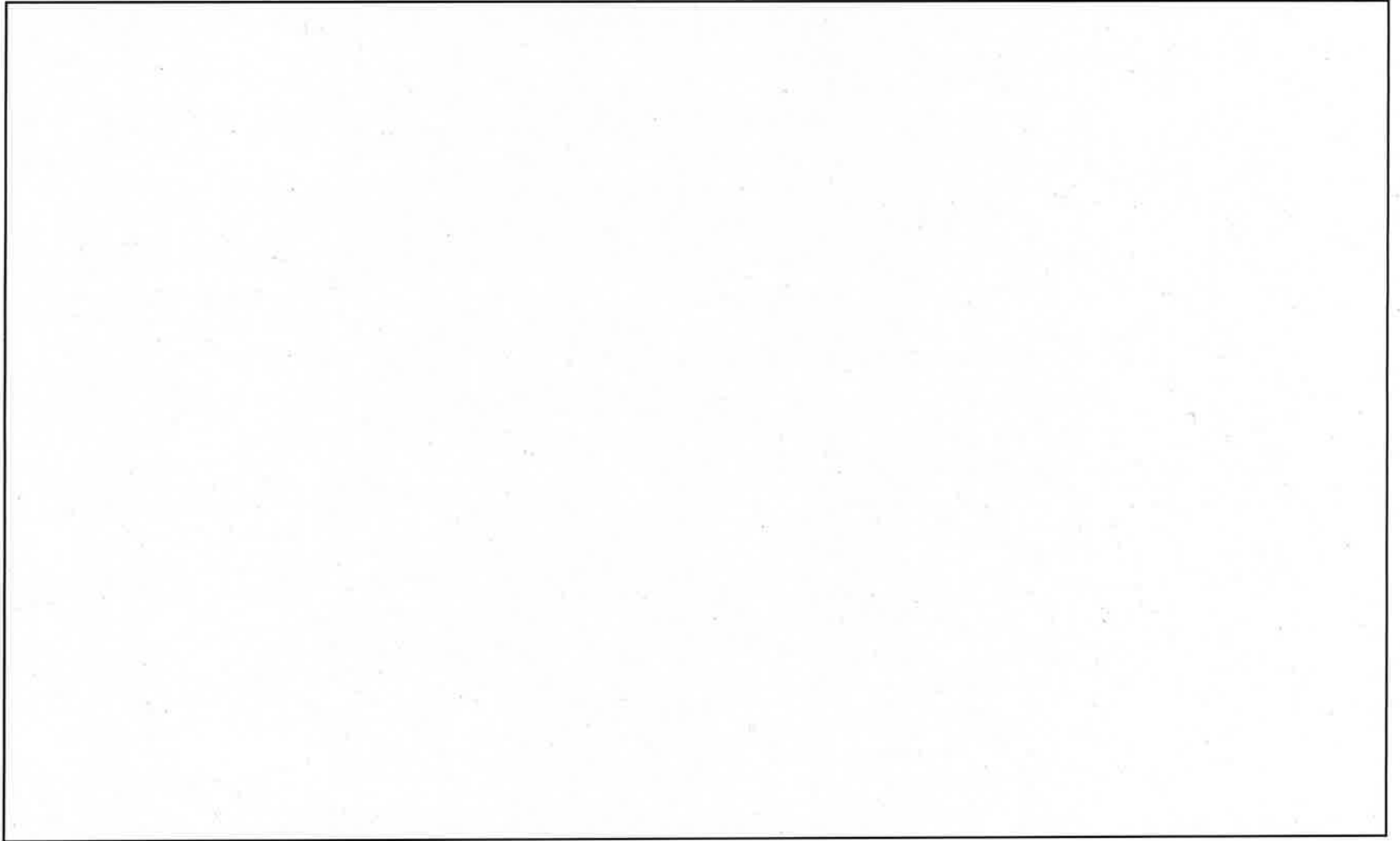
どんな内容かな？

登場人物整理 no.1

<b>Marcel</b>	

登場人物整理 no.2


場面整理 (Sheet no.       )



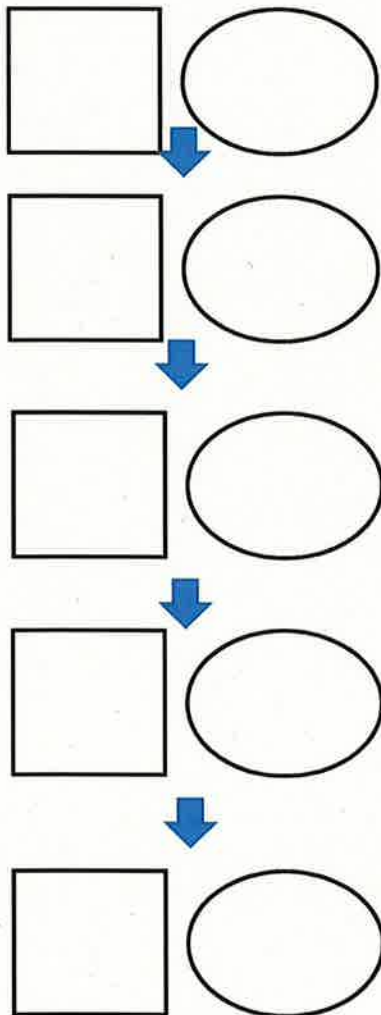
## Task 2

①ア～ケの文章のうち、全チーム共通の4枚の絵と、チームによって異なる1枚の絵の場面としてふさわしいものを選び、のりで借り止めしましょう。さらにこの部分がヒントになった、というところにペンで線を引きましょう。

注：各チーム、Picture E～Iのうちどれか1枚が入っています。

②物語の流れを予測して、絵と文章を並べてみましょう。

□に絵のアルファベット、○に文章の記号



## 実践上の留意点

### 1. 授業説明

#### ○Pre-reading 活動

聞き取った人物とそれに関する情報を付箋紙に書き込み、ワークシートに貼るよう指示する。情報の整理の仕方は特に指示せず、また今後読み進めてゆくにあたって、情報の追加、訂正ができるようにしている。物語を読む場合、初めにさりげなく提示された情報が大切な伏線になっていたり、あるいは重要な情報が後半部分まであえて提示されていないことがある。付箋紙を使った情報整理によって、そのような「物語文」の特徴を発見させ、理解させることが目的である。

未知の固有名詞も複数あるため、生徒にとってやや難しい活動であるが、班で協力して情報を整理しようとしていた。付箋紙で整理することの意味に気付いている生徒は少なく、枠を作って聞いた順番に並べるなど固定的な配列をしている班も多いため、第二次以降の読みでの情報の再整理をいかに柔軟に行わせるかが課題である。

#### ○While-reading 活動

5枚のイラスト(4枚は各チーム共通、5枚目は5種類あり、チームによって異なる。)に対して、文章が9つ用意されており、生徒は文章をすべて呼んだ後に必要なものを選ぶこととなる。文章とイラストを照合することで文章を正確に読み取ること、そして照合したイラストと文章の順番を想像することで、物語の全体像を予想し、Post-reading 活動への動機づけとすることが狙いである。

生徒にとってはチャレンジングな課題であったが、イラストを表す文章を探すため、生徒たちは指示されなくても辞書を使い、班で話し合いをして主体的に活動を進めていた。さらにイラストの順番を並べるために、イラスト間、文章間のつながりを考え、流れについて話し合いをしていた。イラストの並べ方によってさまざまなストーリーが出来上がり、それと比べながら実際の話を読むことで、概要をとらえながら「ざっとよむ」という活動をさせることが狙いであった。各班それぞれの物語全体像が出来上がっていたが、時間が足りず、班ごとにできた並びでストーリーを比べたり、異なるイラストを持つチームによって共通するイラスト部分に異なりがあるかどうかを全体で検討することができなかったことができなかったことが反省である。

#### ○Post-reading 活動

授業最後の3分で、*Marcel and the Shakespeare Letters* の冊子を配布し、読んでもよい、とだけ指示をした。Pre-reading 活動で話の予想を立て、イラストと文章の組み合わせを考えているので、生徒たちはその答えを求め、熱心にテキストを読んでいた。主に、イラストの順番とマッチングの部分を中心に読んでいるので、「概要」が正確につかめているかはわからないが、概ね、全体像はつかめているようであった。この段階ではまだわからないところもそのままにしておき、自分の中の「物語像」やテキストに対する「疑問・興味」を持ちつつ、第2次の読みで伏線やストーリー展開における様々な手がかりを探りながらテキストと「対話」し、物語の構造をより深く理解させることが狙いである。

### 2. 研究協議より

物語を読む目的は本来個人的なものであり、それを授業で扱うためにはプレリーディング活動をはじめとした活動を通して生徒の中に「読む目的」を作ることが必要である。今回の授業では明示的に目的を示すのではなく、活動を通してそれを生徒の中に作ることを目的とした。そのためにプレリーディング活動を重視したが、まだ時間が足りず活動を十分に生かすことができなかった。テキストの特徴を分析

し、そのどの部分をどのように生徒に捕らえさせるべきなのか、という検討は物語教材に限らず必要であるが、たとえば物語であれば「読み聞かせ」という目的にふさわしく、音読指導につながる心情や場面を深く読み取る読みも可能である。指導助言者からもたとえばタイトルにある A and B の構造が物語によくある構造であり、この and のつながりを考えさせることもできるのではという助言をいただいた。生徒のより主体的で深い「読み」を促すために、すべての教材に共通する部分と物語教材に特化する部分をさらに検討し教材化することが課題である。